

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.18
平成28年1月25日

目標に向かって前進—見事です！

22日（金）、中学2年生のA子さんが、校長先生を訪ねてきてくれました。その子は、柔道部に所属していて、黒帯がとれたことや愛知県中学校柔道強化選手選考会にも参加したことを報告してくれました。A子さんは、中学校入学後に柔道を始めたばかりというハンディや、同学年の女子部員は、たった一人という孤独感を見事に克服し、よくがんばったと思います。A子さんの粘り強い努力と心の強さに感心します。



柔道に関して印象深い、相田みつをさんの「受身」という詩を紹介します。」

受身—負ける練習—

相田みつを

柔道の基本は受身 受身とは投げ飛ばされる練習 人の前で叩きつけられる練習
人の前でころぶ練習 人の前で負ける練習です。つまり、人の前で失敗をしたり 恥をさらす練習です。自分のカッコの悪さを多くの人前で ぶざまにさらけ出す練習 それが受身です。

柔道の基本では カッコよく勝つことを教えない素直にころぶことを教える。 いさぎよく負けることを教える

長い人生には カッコよく勝つことよりも ぶざまに負けたり だらしく恥をさらすことのほうが はるかに多いからです。 だから柔道では 始めに負け方を教える しかも、本腰を入れて 負けることを教える

その代り ころんでもすぐ起き上がる 負けてもすぐ立ち直る それが受身の極意 極意が身につけば達人だ

若者よ 失敗を気にするな 負けるときにはさらりと負けるがいい 口惜しいときには「こんちくしょう！！」と、正直に叫ぶがいい 弁解なんか一切するな 泣きたいときには 思いきり泣くがいい やせ我慢などすることはない

その代り スカッと泣いて ケロリと止めるんだ 早くから勝つことを覚えるな負けることをうんと学べ恥をさらすことにうまくなれ そして下積みや下働きの 苦しみをたっぷり体験することだ 体験したものは身につく身についたもの—それはほんものだ

若者よ 頭と体のやわらかいうちに 受身をうんと習っておけ 受身さえ身につけておけば 何回失敗しても すぐ立ち直ることができるから・・・ そして 負け方や受身の ほんとうに身についた人間が 世の中の悲しみや苦しみに耐えて ひと（他人）の胸の痛みを 心の底から理解できる やさしい暖かい人間になれるんです。

そういう悲しみに耐えた 暖かいころの人間のことを 観音さま、仏さま、と呼ぶんです。



みなさんも、この相田みつをさんの「受身」—負ける練習—の詩が教えてくれているように、つらいこと、悲しいこと、困難なことにぶつかり、それができなかつたり、負けたり、恥をかいたりする経験をたくさん積んで、心のたくましい、温かい、優しい、柔らかい人間になってください。